
2020年3月3日（火）発行

メルマガ～開示会計を学ぶ～ Vol.60

株式会社スリー・シー・コンサルティング

- 1 会計ニュースダイジェスト（2020年2月）
- 2 会計基準の公表予定等
- 3 ワンポイント開示会計問題演習「連結包括利益計算書3」
- 4 児玉厚の開示川柳「着地予想 キャッシュ・フローが 鍵になる！」
- 5 編集後記

1 会計ニュースダイジェスト（2020年2月）

- 1) 経産省、ハイブリッド型バーチャル株主総会実施ガイド策定（2月26日）

<https://www.meti.go.jp/press/2019/02/20200226001/20200226001.html>

- 2) 東証、新市場区分の概要等を公表（2月21日）

<https://www.jpx.co.jp/corporate/news/news-releases/0060/20200221-01.html>

- 3) ASBJ、連結納税制度見直しに伴う実務対応報告案公表（2月13日）
（実務対応報告公開草案第58号 意見募集期限：2020年3月9日）

https://www.asb.or.jp/jp/accounting_standards/exposure_draft/y2020/2020-0213.html

- 4) 時価算定会計基準踏まえ会社計算規則改正案公表（2月10日）
（意見募集期限：2020年3月10日）

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=300080207&Mode=0>

- 5) 東証、コーポレート・ガバナンス報告書記載要領等を改正（2月5日）

<https://www.jpx.co.jp/equities/listing/cg/01.html>

（上場子会社のガバナンスの向上等に関する上場制度の整備に係る
有価証券上場規程等の一部改正）

<https://www.jpx.co.jp/rules-participants/rules/revise/index.html>

2 会計基準の公表予定等

- ・先月公表された基準等については上記「会計ニュースダイジェスト」をご覧ください。

1) IFRS (2020年6月までの公表予定)

(無印: 確定 ED: 公開草案 DP: ディスカッションペーパー
RI: 情報要請)

(1) リサーチプロジェクト

- ・共通支配下の企業結合: DP 2020年4-6月予定
- ・のれん及び減損: DP 2020年3月予定

(2) メンテナンスプロジェクト

- ・IFRS第17号「保険契約」改正: 2020年4-6月予定
- ・金融負債の認識の中止のための「10%」テストの対価: 2020年4月予定
- ・金利指標改革及び財務報告への影響(フェーズ2): ED 2020年4月予定
- ・リースインセンティブ(IFRS第16号設例13改正): 2020年4月予定
- ・不利な契約—契約履行費用(IAS第37号改正): 2020年4-6月予定
- ・有形固定資産(意図する使用前の収入): 2020年3月予定
- ・初度適用者としての子会社(IFRS第1号改正): 2020年4月予定
- ・公正価値測定への課税(IAS第41号改正): 2020年4月予定
- ・概念フレームワークへの参照の更新(IFRS第3号改正): 2020年4月予定

・ワークプラン

<https://www.ifrs.org/projects/work-plan/>

・IASB Update

<https://www.ifrs.org/news-and-events/updates/iasb-updates/>

2) 日本基準

(1) 収益認識(表示科目・注記): 2020年3月予定

(2) 「見積りの不確実性の発生要因」及び「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に関する開示
: 2020年3月予定

(3) 取締役等の報酬等として金銭の払込み等を要しないで株式の発行等をする場合における会計処理: 公開草案 2020年7-8月予定

(4) 金利指標改革関連：公開草案 2020 年 4-5 月予定

(5) 電子記録移転権利・暗号資産：公開草案 2020 年 4-5 月予定

(6) 連結納税制度の見直しへの対応：2021 年 3 月まで予定

・現在開発中の会計基準に関する今後の計画（更新：2020 年 2 月 26 日）

<https://www.asb.or.jp/jp/project/plan.html>

3 ワンポイント開示会計問題演習

*メルマガ読者にのみ公開しています。

4 児玉厚の開示川柳

*児玉厚（株式会社スリー・シー・コンサルティング 代表取締役）による
「開示川柳」をお届けしております。

「 着地予想 キャッシュ・フローが 鍵になる！ 」

3月決算の次期予算作成の時期になっている。

それが終われば、すぐに本決算に突入する。

投資家との対話促進の観点より、有価証券報告書が
予測化・管理会計化してきている。

投資家は過去より、将来に関心がある。

投資家は「持続的成長をする会社か否か」に最大の関心を持っている。
その判断材料が「中期経営計画」であり、そのPDCAサイクルを
丁寧に説明してゆくために有報の「経営者による財政状態、経営成績及び
キャッシュ・フローの状況の分析」(MD&A)が設けられた。

これは原則として「計画・実績比較」になる。

(第3号様式で前期比較を求めている箇所は分けて記載することになると
考える)

これはマネジメントアプローチの観点からも同様のことが言える。

毎月の経営意思決定に利用しているのは予実比較分析であり、
前期比較分析（あくまで参考）ではない。

*続きはメルマガ読者にのみ公開しています。

5 編集後記

* メルマガ読者にのみ公開しています。

発行：株式会社スリー・シー・コンサルティング
〒171-0033 東京都豊島区高田 3-14-29 KDX 高田馬場ビル 7 階
URL : <http://www.3cc.co.jp/>

Copyright (c) Three C Consulting Co.,Ltd. All Rights Reserved.